

平成23年度  
福祉サービス第三者評価 報告書

社会福祉法人こうほうえん  
認可保育所  
キッズタウン24かみごとう 様

2012年3月28日

評価機関：特定非営利活動法人 メイアイヘルプユー

鳥取県認証評価機関  
認証番号 福祉サービス第三者評価（第8号）

## 目 次

	ページ
実施概要 .....	1
I 組織マネジメント項目 .....	3
II サービス提供のプロセス項目 .....	15
III サービスの実施項目.....	21
総評 .....	27

(添付資料)

◆ 職員自己評価・利用者調査 集計結果

## 【実施概要】

### 1. 実施スケジュール

- (1) 第三者評価についての事前説明 平成23年11月15日
- (2) 情報収集の実施（調査）
  - ①利用者調査 平成23年12月10日～12月25日
  - ②職員自己評価 平成23年12月10日～12月25日
  - ③経営層自己評価 平成23年11月15日～12月31日
  - ④訪問調査 平成24年1月23日・24日

### 2. 評価の実施方法

東京都福祉サービス評価推進機構が定める手法

### 3. 利用者調査

- (1) 調査の方法 アンケート調査
- (2) 調査対象者数 通園している子どもの保護者100名

### 4. 評価調査者

新津 ふみ子（組織マネジメント項目担当）  
北村 とし子（サービス提供のプロセス項目・サービスの実施項目）  
山田 道子（サービス提供のプロセス項目・サービスの実施項目）

### 5. 評価決定合議日

平成24年2月23日

### 6. 本評価に関する問い合わせ

- (1) 本評価調査責任者 NPO法人メイアイヘルプユー 新津 ふみ子
- (2) 評価責任者 NPO法人メイアイヘルプユー 代表理事 新津ふみ子
- (3) 連絡先  
NPO法人メイアイヘルプユー事務局  
〒141-0031 東京都品川区西五反田2-31-9 シーバード五反田401  
電話：03-3494-9033 / FAX：03-3494-9032

## I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>9/9</b>
	<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <b>評点(0000)</b>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している  <input type="radio"/> 非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている  <input type="radio"/> 非該当
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている  <input type="radio"/> 非該当
	●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)  <input type="radio"/> 非該当
	<b>評価項目2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <b>評点(00)</b>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている  <input type="radio"/> 非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している  <input type="radio"/> 非該当
	<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <b>評点(000)</b>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている  <input type="radio"/> 非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している  <input type="radio"/> 非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えて いる  <input type="radio"/> 非該当

## カテゴリー1の講評

### 法人の理念と保育理念を定め、周知に努めている

法人としての理念に加え、保育サービスの特徴を踏まえ保育理念を策定している。また保育方針と保育目標を定め、園内に掲示、関係者などへ配付数の多いリーフレット、また保護者などに配付する「入園のしおり」に掲載している。日常的には法人理念の具現化に向け、職員としての行動基準を小冊子「互恵互助」に表し、全職員に配付している。朝礼ではこの冊子の項目を読み合わせ、また保育実践上迷った時など、保育指針と共に活用に努めている。利用者への周知は、「入園のしおり」を活用し入園時に説明。また保護者会で取り上げている。

### 園長は、「互恵互助」と「保育目標」の実践を課題とし、役割と責任を果たしている

園長の職務内容は、法人が定める「職務権限表」に明示しているが、法人内他事業所の高齢者施設の施設長と同じ職務内容であり、現状の職務と一部不適合な内容がある。また、主任層についても職務が不明確であり、保育所の職務に対応した内容にすることが求められる。園長は「互恵互助」を行動の指針とし、園として定めた保育目標「心も体も元気な子」の実践のに向けた活動提案をすることを役割と認識している。また職員からの提案を重要視し、吸い上げることをに努めている。

### 現場の案件・課題は検討されているが、その手順等について職員への周知が課題である

現場の課題は、各チームで検討される。本園としての方針や課題の検討は、主任と各チームのリーダーで構成される、月1回の「主任・リーダー会」である。そして全職員を対象とした、職員会議、及びチーム会で報告するプロセスである。しかし、職員自己評価では、重要な案件を検討する手順や決定された内容の周知について、理解できていると回答した割合は約5～6割である。各種会議や委員会等についてその目的や役割、担当者、検討事項などの明示、そして利用者への重要案件の周知も含め一覧表にするなど分かりやすくするための取り組みが求められる。

カテゴリ-2		
2 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(2-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

## カテゴリー2の講評

### 法人として守るべき規範、倫理を明示し、周知に取り組んでいる

福祉サービスに従事する者として、守るべき規範・倫理については「互恵互助」、職員倫理綱領・就業規則に明示。保育に特化した内容については、保育所保育指針に関する園内研修、外部のスーパーバイザーが参加する複雑な課題を持つ子どもに関する事例検討の折等が、子どもの権利等を考える機会となっている。また倫理観、保育者としての姿勢や心得などを自己点検する機会として、3か月毎に「職員セルフチェック表」に記載し、そのシートを主任に提出している。この項目に関する職員調査では、肯定率は52.4%であり、更なる取り組みが求められる。

### 事業の透明性を意識した取り組みがある

第三者評価の受審は、平成19年以降2回目であり、今後継続的に受審する方針がある。本園は、子育て支援センターを併設し利用率も高く、このセンターは、地域への出前講座の実施や支援センター便りなどを地域の公民館などに定期的に配布するなど、地域住民に周知されやすい状況がある。一方、法人のホームページには、本園の概要の掲載に止まり、保育内容などを含む本園の紹介は今後の課題としている。

### 子育て支援センターの機能を活用、また関係機関との連携を意識している

地域福祉に役立つ取り組みとして、行政委託の子育て支援センターの活動があり、計画的に地域の公民館に出向き育児講座、育児相談を実施。地域の子育てグループの支援、また行事(音楽コンサートなど)の際には、登録している子どもたちのみではなく、その友達なども参加している。専門学校への講師派遣、ボランティアとして地域の中学校の職場体験を受け入れている。地域の関係機関との連携は、行政、医療機関、警察、小学校などの関係機関をリストアップし掲示、また要保護児童に関する行政の会議など関係機関との定期的な会議に参加している。

カテゴリ-3		
3	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
サブカテゴリ-1(3-1)		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/8
<b>評価項目1</b> 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
◎あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目2</b> 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目3</b> 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している <span style="float: right;">評点(〇●●)</span>		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
○あり ●なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当
カテゴリ-3の講評		
<b>苦情・意向の解決に取り組んでいるが、さらに対応についての明確さが求められる</b> 苦情受付窓口と第三者委員を園内に掲示、また入園時の説明文書である「入園のしおり」には、苦情解決について明示し、苦情解決の方法と外部の相談先などについて説明している。利用者からの苦情は、連絡帳、電話・メールなどで寄せられるが、即座に園長が対応することを基本とし、関係職員と協議、解決策を出している。クレームの重要度を園長が判断し、職員に回覧することもあるが、現在、リスクマネージャーの活動が軌道に乗っていないこともあり、法人が指定する報告書への記載は滞っている。苦情解決のプロセスの明示と職員への周知が課題である。		
<b>意向の把握の機会を計画しサービスの向上に努めている</b> 利用者の意向把握の機会として、毎年法人として実施するアンケート、及び保育園としては毎年1回以上、随時にアンケートを実施している。アンケートの結果は、併設する第2保育園の園長と当園長が集計・分析し、対応方法を明示し園に掲示すると共に、主に保護者に配付している。「苦情は宝」とする法人の方針を受けた取組みはあるが、今回の第三者評価で実施した利用者(保護者)調査では、設問「要望や不満を言いやすいか」に対し、48.3%が「はい」と回答、設問「要望などへの対応」については56.7%の肯定率である。更なる充実を期待する。		
<b>地域・事業環境に関する情報の把握と分析を課題とした、組織的な取り組みが求められる</b> 地域の福祉ニーズの把握は、子育て支援センターや一時保育の利用者が持つニーズなどから推測できることがある。しかし、本園が所在する自治体や地域の課題、保育園の利用意向状況などについて意識的・計画的に把握する取り組みは認められない。福祉事業全体の動向については、法人内外の研修会などで把握できる。しかし、今後の取り組みに向けた、地域のニーズや福祉事業全体の動向を分析する機会や、定かではない。行政資料からは、入園希望児童の待機はゼロと報告されている。今後の課題について、職員への周知も必要である。		



カテゴリ4		
4	計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
評点(000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
評点(0000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
評点(0000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリ-2(4-2)

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

4/4

評価項目1

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
◎あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-4の講評

法人として計画策定の様式を定め、取り組んでいる

法人として中長期計画を定め、各事業所(部門)の年間計画は、様式「部門別目標管理記録」に記載する仕組みである。法人が定めた目標を本園が所属するエリアとして方針を定め、それを受けて事業所(保育園)として、年間目標とそれを達成するために改善しなければならない問題・課題を具体化するプロセスである。本園では、23年度は保育目標に対し、課題を13項目挙げているが、改善すべき課題なのか、通常の活動なのか区別がつかない。年間の成果を確認しやすくするためにも検討を期待する。行事などの取り組みは、担当者が企画し取り組んでいる。

事業計画の策定、進捗管理に際し、職員の参加が課題である

本園の計画はチーム会(クラス別担当)で話し合い、リーダーがまとめ、主任会議で検討・確認し、園長が文書化している。進捗状況は主任会・リーダー会でその都度確認する仕組みである。策定に際し、利用者アンケートを参考にしたり、法人内保育園間の会議での情報交換・事例検討などを参考にしている。一方、園長は策定の時期や手順の曖昧さを認識しているが、職員調査でも一般職員は、計画策定の手順や職員の参加に関する項目で、「できている」と回答した人は6割弱である。また、計画には課題を解決する担当者の明示は無いなど再検討が求められる。

安全確保の充実を期している

安全確保のため、感染症・急病対応・不審者・虐待対応・事故発生対応などのマニュアルがある。法人としてはリスクマネジメント体制を構築、本園では取り組みを開始している。感染症については、行政からの情報などを活用し看護師が予防対策を提案している。また嘱託医に依頼し研修会を実施している。事故・ヒヤリハットに関しては、法人の仕組みに準じ「いろんなこと報告書」に記載、エリアに報告する仕組みであり、園内では、その都度園長・主任とクラス担当者が検討し再発防止策を講じている。災害に関しては、取り組みを開始したところである。

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/8
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点(○○○)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点(○●●●●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		評点(○○○)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
カテゴリー5の講評		
<p><b>法人として人事制度を明示し適用しているが、さらに一般職員への周知が課題である</b></p> <p>法人として人事制度に関する方針を明示し、人事考課制度を導入している。しかし、職員自己評価の「人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)の明示」について、一般職員による肯定的な回答は38%であり、周知が課題である。職員体制は、常勤雇用を基本とし、また園として力を入れている点として、定員を上回る人員配置、退職者は少なく勤続年数が長いこと、男性職員の割合が高いことを挙げている。職員のクラス配置に際し、毎年意向を調査し、反映させるようにしている。</p> <p><b>研修などの機会を充実させているが、個人別目標管理は今後の課題である</b></p> <p>法人が大切にしている価値観の一つに「職員こそ大事」と表し、法人として人材育成に積極的に取り組んでいる。本園の特徴としては、外部のスーパーバイザーを招聘したほぼ2か月毎の内部研修会や各クラスの公開保育の後の意見交換会などである。職員自己評価では、研修に行きやすいというコメントが複数ある。しかし、法人内他事業はすでに実行している人事考課・目標管理表を使っての個人別育成計画作成は、今年度からの取り組みであり、主任が面接を実施したが、まだ職員間で個人差があり活用できていない。今後の充実が望まれる。</p> <p><b>やる気の向上などへの取り組みがあるが、人材マネジメント分野について課題もある</b></p> <p>職員のやる気の向上に影響している取り組みとして、公開保育・園内研修を挙げている。職員体制は基準以上であり、また経験豊富な職員が多く、安定した職場風土である。就業状況に関しては、年休が取りやすく、またメンタルヘルス対策に法人として「心の健康委員会」の開催、専門職による個別相談、労働安全衛生委員会の開催などがある。一方、職員自己評価では、賃金体系や人事評価について、肯定率は5割弱であり、保育士に対する処遇上の課題を挙げている。</p>		



カテゴリー8	
8	カテゴリー1～7に関する活動成果
サブカテゴリー1(8-1)	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」	<input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
<p>理念・基本方針を意識した実践に取り組み、課題を認識している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・基本方針及び行動規範・倫理の周知を課題とし、「互恵互助」唱和と読み合わせを朝礼で取り組んでいる。園長は、さらに、理解を深めるためチーム会でも取りあげたいとしている。</li> <li>・事業計画に掲げた、「地域包括ケアに向けた事業展開」については、取り組みが不十分であり、検討課題としている。</li> <li>・延長保育の利用は、併設する第2保育園を利用してきたが、19時30分以降の時間を利用する園児が年々減少してきているので、第2保育園の職員も含め討議し、法人に稟儀を挙げて現状に見合う時間帯に変更している。</li> </ul>	
サブカテゴリー2(8-2)	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
<p>研修や行事などの企画・実践力が向上している</p> <p>園長は、各種会議の役割と機能に関する認識が進み、組織的な活動ができるようになってきたこと、また、研修担当者(会)、活動や行事などを担当する会についても、主体的に計画を立案し、取り組み、企画力・実践力が向上していると評価している。このような成果が見られる要因として、職員の定着率の高さと外部のスーパーバイザーを活用した内部研修の定着が影響している。</p>	
サブカテゴリー3(8-3)	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
<p>本園の保育目標の実践に向け、具体的な取り組みにより、成果を上げている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育目標「心も体も元気な子」を掲げ、体力づくりや食育に取り組んでいる。例えば、散歩は5歳児になると足をのばし励まし合いながら近くの山に登り、達成感を味わっている。また、近所の畑を借りて、米づくりに挑戦し、収穫した野菜と一緒に感想を言いながらテラスで食べるなど、多様な機会を毎年増やしており、保育目標の実践に積極的に取り組んでいる。</li> <li>・23年度から、毎月誕生児の保護者参加を得て、クラスでの親子一緒に給食試食会を実施、合わせて保育参観と誕生会への参加が出来るようにした。保護者の参加率は95%を超え、好評を得ている。</li> <li>・見学者を受け入れる時の標準化を課題とし、帳票「見学者メモ」を作成している。園の特徴や料金についても明示し、誰もが説明できるようにしている。</li> </ul>	

サブカテゴリ-4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善に向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

安定的な収支バランスで経過している

- ・財政状況について事務担当者からの実績報告を毎月実施、省エネ・省資源の意識化が進んでいる。
- ・前年度と比較し、利用率の変化は無く、収支状況は安定的に経過している。

サブカテゴリ-5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している

・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

保護者アンケートの結果を受け止め、保育内容などに工夫している

- ・利用者(保護者)アンケートを踏まえ、写真代の値下げをした。また、生活発表会や運動会の行事についても保護者からの要望を受け、併設する第2保育園と別々に実施する体制に変えている。その結果、子どもの発達に合った時間帯や内容で取り組むことができ、また保護者もゆっくりと参観することが出来たなど、好評を得ている。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
	◎あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <span style="float: right;">○ 非該当</span>
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
	◎あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
	サブカテゴリ-1の講評	
	<b>本園の情報は、ホームページ、リーフレットで情報提供している</b> 利用希望者に対する本園の情報は、ホームページ、リーフレット及び自治体で作成している保育所一覧等にも掲載されている。ホームページは、法人本部が作成し、本園も法人が運営する一事業所として紹介されているが内容は所在地などの紹介にとどまっている。ホームページのみでは、園の情報が不足しているため、併設の第2保育園と合同でリーフレットを作成している。リーフレットは法人のカラー(グリーン)を基調とし、保育理念・方針と共に、両園の概要、サービス内容、利用時間、クラス編成等を掲載している。	
	<b>関係機関等へは子育て支援事業を通じて園の状況を伝えている</b> リーフレットは、職員による手作りで、作成に当たりプロジェクトを立ち上げ、両園の違い(サービス提供時間、年齢等)や仕組みのわかり易さに工夫した。このリーフレットは、見学希望者を中心に配付している。園の情報は、自治体より委託されている子育て支援センターで実施している事業などの開催のお知らせや活動を通じて、市内、他園の子育て支援センター、公民館等へ、また、自治体が保育所一覧、広報誌作成の折にも提供している。	
	<b>見学者メモを使い、見学者に対する説明内容を一定にしている</b> 問い合わせ、見学に対応するのは原則的に両園長(本園・併設園)としているが、不在の場合はスタッフが対応する場合もあり、誰が対応しても一致した説明ができるよう今年度より様式「見学者メモ」を作成した。見学者メモは見学者に必ず説明する事項に園の特徴(2つの園で形成、その特徴)、延長料金等と共に入園の決定権は自治体であることを強調している。見学の曜日や時間は原則的に月～金、9時～18時としているが保護者の就労状況に応じて柔軟に対応し、子どもが活動している時間帯の見学を勧めている。	
	サブカテゴリ-2	
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
	◎あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている <span style="float: right;">○ 非該当</span>
	◎あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している <span style="float: right;">○ 非該当</span>



<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		<b>評点(〇〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2の講評

**新入園児には、「入園のしおり」などを使い説明している**

本園の入園対象者は2歳児からである。多くの場合、一体的に運営がされている併設園からの持ち上がりによる入園である。そのため欠員数のみの入園であり少数に限られている。新入園児の保護者には、「入園のしおり」(法人の理念、保育方針、年齢別の発達状況、園での1日の流れ、感染症の登園基準、保育に必要な物品、登降園のルール、保育料等を詳細に記載)を使い重要事項等を園長が説明している。特に登降園のルール、延長料金等の通常の保育料以外の費用について丁寧に説明し了解を得ている。

**入園時に必要な情報は、アレルギーに関すること、保護者の就労状況を特に意識している**

入園直後に必要な子どもの情報は、予め保護者が記載した様式「生活状況調査表」と、それを基に担当が子ども・保護者と個別面談をした聞き取りの結果を記載した「生活状況個人票」により把握している。生活状況は、特に睡眠、食事やアレルギーの有無等と保護者の就労状況について、これに加えて困っていること、保育上の留意点を聞き取り、子どもの支援に活かしている。前述のように本園への入園児の多くは併設園から自然な形で転園である。直接、本園への入園であっても他の保育所経験がある子どもが多い。

**就学先はさまざまであるが、全校の教師と交流の機会を持っている**

卒園、転園によりサービスは終了する。就学時期に対応して保護者懇談会を開催し、入学に備えて説明を行ない保護者の不安に応えている。子どもたちは市内の多地域から通園しており、就学先は14校にも及ぶ。それぞれ入学先の教師を招き子どもの様子を伝えるなどクラス担当が交流する機会を持っている。そして「気になる子ども」について保護者の了解の下、発達状況等、就学支援シートに記載し就学先に情報提供している。また、子どもは入学予定校で体験入学を経ている。中途退園の場合は転園先に健康調査表を保護者を通じて提供し連携を図っている。

サブカテゴリー3

3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12 / 12
---	-----------------	-------------------	---------

<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		<b>評点(〇〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

<b>評価項目2</b> 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		<b>評点(〇〇〇〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	<input type="radio"/> 非該当

<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当

**サブカテゴリ3の講評**

**子どもの心身状況や生活状況等は児童票や面接シート、個人懇談記録から把握している**  
 子どもの心身、生活状況(アセスメント)等は、入園時に保護者が記載した「生活状況調査表」等を基に面談者が子どもと保護者に面談した内容を記載した面接シート、児童票より、加えて入園後は、個別面談、日々家庭の様子を記録した連絡帳、保育経過記録、月案、週案の実施状況から把握している。これらの情報を基にクラス担当の複数の保育士が主任の指導を受け月案を立案している。また、児童票等の見直しについては、進級時の保護者との個人面談で行っている。

**月案は合同で検討し、保護者へは個人懇談、クラスだより、送迎時にも知らせている**  
 保育課程と発達に応じた年間指導計画(養護・教育面他)は保育アドバイザーの助言も受けて作成し、具体的な指導計画(月案)に活かしている。月案は月案作成手順に沿い、週日記録、保育経過記録、連絡帳等も参考に作成し、月末に評価反省後、クラスの月案担当者が月案検討会に持ち寄る。検討会では前月の月案の評価・反省を踏まえて園長、主任の基に各クラス合同で検討し活用する。保護者へはクラスだより、個人懇談、送迎時にも説明をする。計画の見直しや緊急時の変更は主任会議や朝礼で職員に周知している。

**一人ひとりの記録を個別に記載し、朝礼や昼ミーティング等で情報を共有している**  
 子どもごとの記録には、発達を意識した児童票、視診表、週日記録、保育経過記録、連絡帳等がある。保育経過記録(発達状況、発達が見られた月齢)は、具体的な支援である養護(例:食事、睡眠、排泄他)と遊びを視診表、週日記録、連絡帳等から把握し記載している。また、3期に分けて見直しをしている。子ども一人ひとりの日々の様子は、朝礼、視診表で確認し、申し送り、引き継ぎにより職員間で共有している。また、月案検討会は事例検討も兼ねており、必要に応じて朝礼時にその内容を伝えている。

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 7/7
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<b>子どもの個人情報の利用目的を明確にして年度ごとに同意を得ている</b> 子どもの個人情報の利用に関して、法人の定めるプライバシーポリシーに沿い利用目的を明確にしている。入園時に園だより・クラスだより、新聞・雑誌等の取材、法人の広報誌・ホームページ等への氏名、写真掲載の可否に付いて同意を得、且つ、年度ごとにあらためて確認をしている。法人内の事例発表時には、対象児の保護者へ記事・写真掲載内容を説明し了解を得ている。また、保護者への緊急連絡は園から直接、保護者に電話で伝え、保護者間のメール等の連絡網はプライバシーに配慮して作成していない。		
<b>就学に向けて生活リズムが整えられるよう支援している</b> 排泄に失敗したときは、他児が気づかないよう処理に努め子どもの羞恥心やプライドに配慮している。一方、子どもはのびのびと自然にあるがままに振舞えることも良しと園長は考えている。子どもや保護者の持つ価値観、生活習慣は尊重する方針である。しかし、保護者の都合で登園時間に大幅に遅れることにより子どもが集団に溶け込めないなど影響がある場合は、繰り返し協力を求める努力をしている。また、子どもの発達に生活リズムの大切さを伝え、特に就学に向けて生活習慣を整えられるよう折に触れクラス担任、主任等が話しをしている。		
<b>職員による不適切な言動などに関する、更なる取り組みが求められる</b> 園長は行政が開催する要保護児童対策地域協議会で、育児困難家庭等の支援について研修を受ける機会があり、職員にはその伝達研修を実施している。また、被虐待児の情報は家庭相談支援センターに連絡し、その事例検討に対象児のクラス担当保育士が参加することもある。職員による子どもへの不適切な言動の予防対策のひとつ「セルフチェックシート」(法人の職員としての倫理観に基づく基本姿勢をチェックする様式、年3回実施)により、職員は内省の機会もある。この活用も含め、職員の不適切な言動などを課題とし話し合う機会が求められる。		

サブカテゴリ-6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

11/11

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(00000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

### サブカテゴリ6の講評

#### 活用頻度の高い手順書は感染症、事故対応に関してである

業務の標準化の取り組みに各種手順書を作成している。手順書は、入退所、登降園、遊び、散歩、保育士業務など多岐にわたりファイル化している。中でも感染症、事故対応に関しての手順書は常用されている。これらの手順書は、各クラスの担当委員が本園の実情に合った手順を文書化したもので、平易な言葉で具体的に表現し、わかり易さに工夫している。また、サービスが手順どおり提供されているかについて、年2回法人内部監査等のシステムで点検されている。

#### 職員、保護者の意見、提案は基本事項の改善に活かしている

サービスの基本事項や手順の変更時は職員、保護者の意見を反映させる方針がある。職員は各種会議で、保護者は行事後のアンケート、懇談会、連絡帳等で提案できる仕組みである。最近、改善した例は保護者アンケートより運動会、生活発表会を併設園と開催日を別の日にしている。その結果、低年齢の子どもを気にせずゆっくり楽しめたなど好評であった。また、職員からの提案で、外用薬を預かり塗布している場合は、1か月毎に継続の要否について保護者に確認することを取り決め実施している。

#### 研修や指導体制など業務の水準確保に取り組んでいる

手順等の変更に関して朝会や各種会議で職員間に周知されるよう図っている。また、職員は充実した内部研修受講の機会があり、時には外部講師によるスーパーバイズを受けることもできる。そして分からないことは日常的にリーダー、主任、園長等にアドバイスを受け易い雰囲気が根付いている。なお、子どもの安全性確保は優先課題として取り組んでいる。子どもの生活空間は担当者、点検箇所を決め毎日チェック、園庭の大型遊具は業者が修理時期等の基準を決め点検している。AEDを使っでの救急救命講習も職員全員が受講している。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		35 / 37	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけができるよう、環境構成を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
評価項目1の講評			
<p>一人ひとりの発達過程を把握し、自然環境にも恵まれ、自由に遊べる環境を整えている</p> <p>子ども一人ひとりの発達の過程は児童票の経過記録や週日記録、視診表、連絡帳等から、また、子どもの生活状況は送迎時の保護者とのコミュニケーションからも把握している。本園は保育目標に「心も体も元気な子」を掲げ、自由あそびは異年齢で芝生の園庭(砂場、遊具もあり)や遊戯室で運動遊び等をしているが、自然環境にも配慮している。色々な生き物の飼育、花や野菜栽培など、子どもが身近に触れられるように整えている。遊びは発達に応じて計画的に提供され、コーナー遊びや季節の遊び(例:こま、かるた)も取り入れ楽しんでいる。</p> <p><b>異年齢交流があり、絵本コーナーで文化・習慣の違いに触れる機会がある</b></p> <p>本園の保育形態は基本的には年齢別クラス編成(2~5歳児)であるが、異年齢保育(3グループ編成)を月2回実施、また朝夕の延長保育でも異年齢交流が活発に行われている。指導計画も保育目標の中の4つの視点「やさしい子」「たくましい子」「ゆたかな子」「がんばる子」を念頭に作成している。また、本園には充実した絵本コーナーがあり、子どもは保育士と一緒に様々な絵本を通して文化や習慣の違いに触れ、気づきの機会としている。22年度には、在園の外国人の保護者に依頼し世界地図を一緒に見るなど他国に触れる機会も設けている。</p> <p><b>配慮が必要な子どもも受け入れ、子ども同士のトラブルは気持ちを受け止め対応している</b></p> <p>障害など特別な配慮を必要とする子どもも、園の方針で普通に受け入れており、保育士は他の子どもにも理解を求め、子ども達は違和感なく一緒に遊んでいる。子ども同士のトラブルについては、低年齢児では、保育士が仲立ちをして本人の気持ちを代弁し相手に伝え、3歳児以上では自分を抑制(考えさせる)できるような言葉かけに努めている。チーム会議やリーダー会議でトラブルの要因や対策を話し合い、月案に配慮点とすることもある。保護者には発達の過程(かみつぎ等)では起こりやすく、理解を求め手紙を出すこともある。</p>			
2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当

評価項目2の講評

保護者と子どもの健康を確認し、家庭での様子を聞いて視診表等に記載している

本園の登園時間は朝7時からであるが、朝延長で6時台から登園する子どももあり、保育士は子どもの表情(十分な睡眠か)や顔色、体つきをよく見て健康状態(薬預かり含)を保護者と共に確認する。保護者には前日帰園後の様子(食事、排便、睡眠等)や気になることがないかなどを聞き、視診表とクラスノートに記載し、連絡帳にも目を通して。子どもに関するこれらの情報は各クラスで個別に記録され、保育活動や引き継ぎ等にも活用される。また、園長は毎朝各クラスを巡回して視診表に目を通し、子どもの様子を把握している。

「生きる根っこを育む」を掲げ、基本的生活習慣の自立に向けて支援している

「一人ひとりの発達と個性を大切に、生きる根っこを育む」とする保育理念の基に具体的な指導計画(月案)を作成している。月案には指導の重点として養護面に個々の子どもの姿を捉えて、基本的生活習慣(食事、排泄、清潔等)が身につくように、保育士の関わりと援助を記載し進めている。基本的生活習慣の取得には保護者との連携が欠かせず、送迎時の対話や連絡ノートの活用、個人面談を行い取り組んでいる。休息(昼寝)は家庭の生活リズムや子どもの状況に合わせて行っている。5歳児は10月より就学に向けて昼寝は原則していない。

お迎えの保護者には園生活での健康状態と遊びの様子を丁寧に伝えている

お迎えは保護者の利用時間により異なるが、クラス担任は視診表とクラスノートを確認しながら一人ひとりの保護者に園生活での健康状態を伝えている。特に病後に登園した子どもを心配する保護者に対しては服薬のことや食事、排泄、日中の遊びの様子を細やかに伝え、安心感を与えている。「健康」については延長保育でも同様に十分留意し、引き継ぎをしている。クラス担任は成長を感じた子どものエピソード等も保護者に伝えているが、各クラスのその日の園生活の遊びや出来事は活動報告として玄関に掲示されている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当

評価項目3の講評

指導計画は重点目標を念頭に「育てたい内容」、「保育者の関わり」等で構成されている

本園の保育課程(保育理念、保育目標)を念頭に保育アドバイザーの助言も受けて年間指導計画、指導計画(月案)を作成している。指導計画は4つの重点目標(安心、認め合う、チャレンジする、生命を尊ぶ)を盛り込み立案され、子どもへの援助(育てたい内容)や保育者のかかわり、そのための環境構成等に配慮した内容にしている。また、月1回、園内研修(遊び、歌、生活リズム等)を行い、さらに保育アドバイザーの指導で内部研修として公開保育に取り組み、保育士間で学び合う機会を作り、保育内容の充実に努めている。

広い園舎内外で、子どもは保育士の見守る中で、異年齢で自由に遊べる環境にある

保育目標の4つの重点項目の中に「様々なことに興味を持ち、意欲的にチャレンジする」、「自然物に興味を持ち、命の尊さを学ぶ」などあり、園舎内外は広く、保育室、遊戯室、図書コーナー、園庭など子どもは異年齢(2~5歳児)で保育士の見守る中で自由に遊べる環境にある。特に園庭の芝生は子どもに裸足の感触を味あわせている。また、随所にある生き物の飼育箱や草花も子どもの感性や自然への興味、関心を持たせる要因となるよう配慮している。一方、月齢に応じた遊びが提供されているが、全園児が共通して歌える歌も毎月決めて楽しんでいる。

各年齢とも遊びの時間を大切に、週日案で遊びの内容を具体化している

園のしおりにも、子どもの発達の姿と保育の一日の流れを記載するなど、各年齢とも遊びの時間を大切にしている。保育指針の5領域を踏まえた指導計画を週日案に具体的に記載し実践している。例えば、集団保育の一斉活動ではマラソンごっこで体を使って遊ぶや、表現遊び(粘土、色紙、他)の色々な物を作ってみるなどを計画的に行っている。子ども達は、日常的に園舎周辺を散歩をして季節の自然物を持ち帰り共同制作として展示もしている。散歩は5歳児になると足を延ばし励まし合いながら近くの山に登り達成感を味わっている。

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目4の講評

**子どもの意見も取り入れ、各年齢で「劇ごっこ」に取り組み満足感を味わっている**

行事は前年度の反省や保護者の要望等も参考に主任リーダー会議で発達段階を踏まえて企画し、担当者を決めて職員会議で話し合っている。2歳児以上の生活発表会では、保育の中で親しんでいる絵本を取り上げ、子どもの意見も取り入れ、劇ごっこ(音楽入り)を実施している。4歳児の「はらぺこあおむし」の絵本の劇ごっこ等は、本園の生き物の飼育とも関連し、子どもの関心を増している。生活発表会終了後も子どもの楽しむ姿があり、満足感を味わっていると評価・反省している。行事は他にも運動会、園外保育、季節の行事等を計画的に行っている。

**行事について保護者への予定表の複数回配付、終了後は感想を聞き次回に活かしている**

園の行事は年度はじめに年間行事予定表を保護者に配付しているが、行事を行う前に保護者に手紙で、行事のねらいやその内容を伝えている。行事終了後は参加しての感想を求める手紙を再度出して次回の行事に活かしている。行事終了後はその様子を園全体のキッズタウンだより、クラスだよりに掲載し、廊下に掲示。また個々の子どもの連絡帳で活動の成果を報告している。また、栽培における草取りや、米づくりの田植えへの協力依頼などは「保護者の皆様へ」として随時手紙を出し、一緒に活動してくれる希望者を募っている。

**次世代育成や世代間交流に取り組み、子どもが色々な人に出会う機会を確保している**

保育課程の地域交流の観点から、本園は積極的な次世代育成や世代間交流に取り組んでいる。隣接の高齢者福祉施設とは子ども達は自然に交流しているが、チラシ、ポスター掲示等で地域に計画的に園の行事を知らせ地域の人々と触れ合う機会を作っている(夏祭り、餅つき大会など)。また自治体主催の催しに歌や手遊びの披露、作品展への参加等で地域とのつながりを深めている。日常の保育には職場体験や触れ合い交流の中高生、授業の一環で大学生を一定期間受け入れ、子どもが色々な人に出会う機会を確保している。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○非該当



評価項目5の講評

延長保育専用の部屋で子どもは気分転換をし、リラックスして過ごしている

延長保育は20時までとし(場合により併設園との連携で22時まで可能)、担当職員への引き継ぎは特に健康状態に留意し、延長保育専用の部屋で過ごしている。日中の保育室とは雰囲気も玩具も違い部屋の移動は子どもの気分転換にもなっている。部屋には昼間の疲れを癒せるように畳コーナーやクッションフロアがあり、子どもは保育士の膝で絵本や好きな玩具で遊ぶなど、リラックスして過ごしている。迎えの時間により補食、夕食が準備されるが、現状は食事を摂る子どもが少ない。

子どもの様子を職員間で丁寧に引き継いでいる

保育目標の重点項目の一つに「自分の思いを伝え、友達のことを思いやり、互いに認め合える子ども」を掲げている。朝夕の自由遊びは広い園舎内外を子どもは保育士の見守りの中で自由に行き来をしている。訪問した日も遊戯室で友達とソフトブロックで遊ぶ姿や、冬の遊びの設定から異年齢で駒回しを楽しむ姿が見られた。引き継ぎは事前にクラスの複数の保育士で子どもの様子を把握し、視診表とクラスノートを活用して確実に実施している。また、毎日の朝礼で子どもの状況は、職員間で共有している。

保護者には、健康状態やこどもに関する生活や遊びを伝えている

保育時間の長い子どもは、延長保育専用の部屋で異年齢で遊びながら過ごしているが、疲れている子どもには保育士は休息を勧めて寄り添っている。お迎えの保護者にもまず、健康状態(機嫌、食事、排泄、お昼寝他)を視診表、クラスノートを見ながら伝え、服薬がある時は確かに服薬したことを確認し、子どもの様子を丁寧に伝えている。また、登園時に保護者からの依頼(忘れ物他)や問い合わせ等を受けていた場合にはそれらにも対応している。日中の保育活動の様子は週日案やクラスノートでその子どもにまつわる生活や遊びを伝えている。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	○非該当

評価項目6の講評

ランチルームで異年齢と一緒に食べたり、同年齢で保育室で食べたりしている

本園は保育目標に「心も体も元気な子ども」を掲げ食事に力を入れている。実際の食事は広いランチルームで異年齢で関わりながら食べる週と、同年齢で少人数で保育室で食べる週とに分けている。食事は月齢や保育活動により時間差が少しあるが、5歳児は当番で食卓を整え配膳と片づけなどを手際よく進めている。栄養士、保育士は子どもたちに食材の説明をしたり、子どもからの「どうやって作るの」等の質問にも答えながら和やかに食べている。また発達を考量したテーブルと椅子が用意され食器、食具も親しみやすい絵柄である。

献立には、園独自のメニューも入れて食材にこだわり提供している

献立については園長、主任、クラス担任、看護師、栄養士、厨房職員で月1回、定例給食委員会を開いている。事前にクラス担任より献立等に関する提案(味、盛り付け他)やアレルギー(除去・解除)等の検討事項が出されており、各立場からの発言等を献立に活かしている。献立は地元の食材にこだわり、自前の煮出し汁、和食を中心とし、月1回は園独自のメニューを提供している。体調が勝れない、食べられない子どもへは柔軟な対応をし、食物アレルギーの子ども(医師の指示書提出)へは、通常の献立と似た食べ物を提供するなど配慮している。

本園独自の取り組みや献立を保護者に知らせている

食育計画の一環で夏野菜(なす、胡瓜、南瓜、トマト他)の栽培をし、種蒔からの世話や収穫の喜びを味わう体験をしている。更に「ごはんはどうしてできるのか」のねらいの基に、5歳児を中心に田植えから始まる米づくりに挑戦し2年目を迎えた。収穫した野菜やお米は、子ども同士感想を言いながら時にはテラスで食べることもある。また、栄養士と保育士の指導で調理活動(3歳児以上)も3か月に1回行い、食への関心を深めている。保護者へは毎月の献立表、給食だより、クラスだよりの配付で食の取り組みを知らせ、誕生日には保護者も試食をしている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>看護師は季節や時期を捉え、病気や怪我などの予防について伝えている</p> <p>保育士、看護師は共に子どもの健康状態を視診表、連絡帳、週日記録等で把握している。看護師は保育士と連携し季節や時期を捉えて病気や怪我の予防を子どもたちに伝えている。例えば、歯磨き、食中毒、感染症等については紙芝居、関連のグッズを使い、実際に歯磨きや手洗いの指導を行い、気をつけることを話している。一人ひとりの健康管理は嘱託医による定期健診を年2回(歯科年1回)実施し、身体計測は毎月行っている。健診後に嘱託医から新知識を職員は学び、健診結果、身体計測は連絡帳等で保護者に知らせている。</p> <p>医療的なケアが必要な子どもについて、専門機関と連携する体制がある</p> <p>子どもの健康状態には特に気をつけて保育をしているが、保育中の急な子どもの体調不良や怪我等が起こった場合には、看護師が子どもの状態を園長に伝え、園長の判断のもとに医療機関を受診している。また薬の預かりは医師の処方のみとし、1日1回、薬剤名や時間を「薬依頼書」に保護者が記載し提出する(服薬は原則看護師対応)。本園は障がいのある子ども、軽度の医療的ケアが必要な子どもも在籍し、医療機関等と連携しながら保育を進めている。これまでも専門機関と連携が必要な子どもを受け入れており、関係機関と連携し、支援している。</p> <p>入園のしおりで、「乳幼児突然死症候群」について注意喚起を図っている</p> <p>入園のしおりに罹りやすい感染症の一覧表を載せ、罹患した後の登園基準などについて説明している。毎月発行する「保健だより」でも取り上げ保護者に情報を提供しているが、食中毒やインフルエンザなどの流行期には随時掲示をしたり、手紙で予防を呼びかけたりしている。入園のしおりに「乳幼児突然死症候群(SIDS)」についても載せている。子どもを一人にしないことや乳児用呼吸モニターで観察している園の取り組みなど、家庭でも赤ちゃんを守るために顔がみえるように、仰向けに寝かせましょうなどと具体的に注意喚起を図っている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(○○○●●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○非該当
○あり ●なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○非該当
○あり ●なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当

評価項目8の講評

時間延長には随時柔軟に対応しているが、意識的な保護者同士の交流設定が望まれる

保育課程に保護者の仕事と子育ての両立等を支援することを掲げ、保育時間や時間延長には随時柔軟に対応している。保護者の子育て状況や就労状況等は児童票、個人懇談(年2回)や連絡帳等からも把握しており、例えば、当日の時間延長の申し出なども保育士は快く対応し視診表(保護者連絡事項欄)とクラスノートに記載し引き継いでいる。保護者同士が交流する機会としては運動会や生活発表会等の行事を通してやクラス懇談会(年1回)、保護者会等でも行われていると思われるが意識的に捉えられておらず、今後の取り組みに期待する。

保護者と子どもの成長を確認することに努めている

本園の基本方針である、「子どもと同じ視点でかかわり、安心して利用できる保育に努める」を念頭に、全職員が丁寧な対応を心がけている。保育士は送迎時にはできるだけ保護者の話しをよく聞き、特に低年齢児では園での子どもの様子を詳細(健康、遊び他)に伝えている。連絡帳(2歳児以上)にも保育士のコメントを記載しているが、子どもに関する保護者からの相談等は内容により主任や園長に繋ぐこともある。保護者は子どもの成長を保育士と共に確かめ合うことで安心し、保育士に対する信頼も増すとと思われる。

保護者の意見や提案の場は確保されているが、保護者支援の取り組みを期待する

保育に関して保護者が意見や提案をする場は、保護者会総会(年1回)、役員会(年2回)、クラス懇談会(年1回)、ご意見箱、行事アンケート等がある。最近では本園の創立10周年記念行事の実施にあたり、保護者からさまざまな提案や協力を得ている。また、保護者との共通認識を得る取り組みとしては参観日(年3回)の後に主任、リーダー会議で企画した育児講座を実施している。外部講師による「メディアとの関わり」、「しつけについて」などのテーマで開催しているが、単発的であり、今後は保護者支援について、継続的な取り組みを期待する。

9 評価項目9

地域のニーズに即した子育て支援を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	○ 非該当

評価項目9の講評

地域のニーズに応じて子育て支援事業を活発に展開している

在宅の子育て支援は保育所に課せられた役割である。本園も地域の子育てに関するニーズに応えるべく自治体の委託を受け、一時預かり保育、育児相談、出前講座、子育てサークル支援等の子育て支援事業を担当職員を配置して実施している。一時保育は登録制が原則であるが、電話等での緊急依頼にも対応している。出前講座は、公民館等に出向き季節的にお正月遊び、ペープサート等を、また、子育てサークル支援は、自治体との話し合いで3組のサークルの支援を担当しており、自主的なサークル活動を側面から支援している。

子育て支援事業に参加する家族同士、顔見知りの関係ができています

出前講座等の催しのつどチラシを作成して自治体を通して各子育て支援センター、公民館、保健センター、児童館など子どもや保護者が集まりやすい場所に情報提供している。園庭開放や子育てサークル等の支援事業に参加する家族同士、顔見知りの関係になり交流が生まれている。催しの様子は、反省と共に記録に残し次回の催しに活かすように努めている。

社会福祉法人こうほうえん  
キッズタウン 24 かみごとう

特定非営利活動法人メイアイヘルプユー

2011 年度第三者評価総評

本園の第三評価の受審は、前回は 2009 年 1 月、今回が 2 回目である。前回との相違点は、①東京都福祉サービス評価推進機構が定める評価基準の使用（前回は、厚生労働省発出、保育所版「福祉サービス第三者評価基準ガイドライン」を使用）、②評価の根拠とした情報の違い（前回は、園長など管理者の自己評価及び聞き取り調査と資料・文書類。今回は、これに加え、職員自己評価と利用者（保護者）調査を実施し、この結果を評価の根拠として採用。）である。

特に優れている点

1. 学習する風土が育まれている

法人が大切にしている価値観の一つに「職員こそ大事」と表し、人材育成に積極的に取り組んでいる。研修に力を入れ、本園に併設する「キッズタウン 24 第 2 保育園」（0, 1 歳児の保育を担当）と合同で取り組んでいる。研修担当者は年間計画を立て、2 か月毎の内部研修を実施、また外部からもスーパーバイザーを招いて、事例検討など実践的な研修内容である。管理者は、担当者の企画力・実践力が向上していると評価、また職員のやる気の向上に影響している取り組みとして、研修の一企画である年齢別クラスの公開保育（他のクラスの担当者が参観する）とその後の意見交換会を挙げている。さらに、年度の研修課題を決定する時には、本園の保育目標「心も体も元気な子」を掲げ、体力づくりや食育を課題とし、具体策な保育内容を決定し取り組んでいる。

職員自己評価では、研修に行きやすいというコメントが複数寄せられている。経験豊富な職員が多く、安定した職場を感じるが、この学習し合う風土がその背景にあるように思われる。

人材育成に関する今後の課題として、法人として実施している人事考課・目

標管理表を使った個人別育成計画の作成の取り組みを開始したところである。経験豊富な職員が多い本園で、個人別育成計画を作成する目的と活用について、十分に検討し、職員へ周知することが求められる。

## 2. 保育目標の実践に向けた具体的な取り組みが成果を上げている

### 1) 自然に関心を持たせる環境が充実している

保育目標を実践する際に、「意欲を持ちチャレンジする」「自然物に興味を持ち、命の尊さを学ぶ」などを視点としている。園内には、生活と遊びの場が確保され、園庭も素足で遊べる芝生にしている。花や野菜栽培に加え、さらに様々な生き物（めだか、甲虫の幼虫など）が飼育され、身近に自然に触れられる機会を充実させている。虫好きの保育士がいるということであるが、子どもたちの様々な問いにも分かりやすく答え、一緒に世話をしながら子どもの興味や関心を発奮させている。また、5歳児は、散歩の足をのばし、近くの山にミニ登山する機会を作るなどチャレンジの機会ともなっている。

### 2) 「食育」の取り組みが充実している

献立は、栄養士、厨房職員、園長、主任、クラス担任、看護師で構成する月1回の給食委員会で各立場からの意見を出し、検討している。献立は地元の食材にこだわり、自前の煮出し汁を使い和食中心、そして栄養士の工夫で、月1回は園独自の新メニューを出すなど食材や献立にこだわり、食育を意識している。

食育計画の一環として、2歳児以上に夏野菜の栽培に参加する保育を実践している。栽培計画を立て、保育士と一緒に土づくり、夏野菜の種まきや苗植え、そして毎日本水をやり、収穫の喜びを体験している。

また、「ご飯はどうしてできるのか」を食育の一つの狙いとし、5歳児が中心となり、田植えから始まる「米作り」に、2年前からチャレンジさせている。近くの農家から田んぼを借り、米作りの工程を教えてもらい、そして、収穫した野菜や米は、感想を言いながら、時にはテラスで食べることもある。この活動は保護者にも呼びかけている。

栄養士と保育士の指導で、3歳児以上は、3か月に1回程度の調理活動の機会があり、また、食事時には食材の説明を分かりやすくするなど、楽しく、安心して、そして食事に興味を持つ保育・食育に取り組んでいる。

## 改善が必要とされる点

### 1. 今後の事業の見通しを持つためにも、地域・事業環境に関する情報の把握と分析に組織的な取り組みが求められる

法人の理念である「地域」を意識した取り組みは、行政委託の子育て支援センターの積極的な活動や地域の関係機関との連携に見ることができる。一方、利用者ニーズから「地域」を見ると、近年、延長保育の利用者が減少していること、また鳥取県では入園希望児の待機者数はゼロと報告されている現状の中で、本園を取り巻く地域のニーズに対する明確な見解を聞くことはできなかった。行政情報や地域の保育に対するニーズとその変化などに関する情報の把握とそれを整理・分析し、今後の方向性を検討する組織的な体制が不明確である。仮に法人本部がその役割を担当しているとしても、現場職員の今後の活動やモチベーション、雇用などに影響することでもあり、体制や意思決定について明確にすることが望ましい。25年度は、本法人へ公立保育園の民間移管がされることが決まっており、これを機会に、体制作りに取り組まれることを期待する。

### 2. 保護者に対する就労支援のみではなく、共に子どもを育てる観点からの取り組みに期待する

本園は、365日の開園であり、また保護者の利用時間には柔軟に対応し、利用者（保護者）調査の設問「保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか」では、96.7%が「はい」と回答している。一方、同じ子育て中の保護者同士の交流を促すことや、子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、共通認識を得るための取り組みは弱い。子育て支援は、就労支援のみではない。保育士、看護師、栄養士などの専門職が持つ、子どもを育てる上での様々な知識や、実践から得た豊富な経験を保護者に伝え、語り合い、共に子どもを育てて行くことが保育所の役割として求められる。今後の取り組みとその充実に期待する。